

バレーボール実施要領

1 競技規則

競技規則は、令和7年度全国障害者スポーツ大会競技規則（令和7年4月1日より実施分発行）によるものの他、この要領に定めるところによる。

2 施設と用具

- (1) コートは18m×9mの広さを持つ長方形とする。
- (2) ネットの高さは2m24cmとする。
- (3) ボールは（財）日本バレーボール協会制定のソフトバレーボール球・糸巻き（モルテン製円周78±1cm、重量210±10g）の規格のものを使用する。色については規定しない。

3 競技参加者

- (1) 試合は6人制で行う。（必ず女性選手が常時1人以上出場していること。）

4 競技方法

- (1) 試合は3セットマッチとし、2セットを先取したチームを勝ちとする。
- (2) 1セット25点のラリーポイント制とする。なお得点が「24対24」の同点となった場合、2点リードしたチームをそのセットの勝者とする。
- (3) 予選は、リーグ戦方式とし、決勝は、トーナメント方式とする。ただし、参加チーム数によっては、全てトーナメント方式で行うことがある。この場合、以下の規定の内、予選リーグは適用しない。
- (4) 予選リーグで勝率が同率の場合は、セット率、得点率の順番で順位を決定する。
- (5) 第3セットは、リードしているチームが13点に達した時には、ただちにコート交代をする。
- (6) それぞれのチームには、1セットにつき最大2回（1回30秒間）のタイムアウトと6回の競技者の交代が認められる。（タイムアウトは、監督あるいは監督が不在の場合はゲームキャプテンが要求できる。）交代の際には、6人制競技規則に基づいた交代の方法を取る。
- (7) スターティング・ラインアップの競技者は交代によりコートを離れても、1セットにつき1度だけスターティング・ラインアップの元のポジションに戻るることができる。
- (8) 例外的な交代として、負傷した競技者の代わりに、その時点でコート上にいないいずれかの競技者と交代ができる。ただし、交代後も必ず女性選手が1人以上出場していなければならない。不可能な場合には、その時点でゲーム終了とし、そのセットより無効となり不戦敗とする。
- (9) サービスの実行
 - ア 主審がサービス許可の吹笛後8秒以内にボールを打たなければならない。
 - イ サーバーはエンドラインの後方、かつサイドライン延長線の内側で打たなければならない。その際にエンドラインを踏んではならない。
 - ウ サービスはボールがトスされたか、手から離された後、片方の手または腕で

打つ。(片方の手のひらに置いたままのボールを、もう片方の手で打つことはできない。)

エ サーバーがサービスを打つ順番は、事前に提出されたサービング・オーダーに従わなければならない。

(10) プレー上の動作

サービスを直接アタックもしくはブロックして相手コートに返すことはできない。

(11) 競技者は、フロントやバックなどの位置による一切の制限を受けずに、自由に移動してプレーすることができる。

(12) 試合開始時刻(下記の時刻を原則とするが、選手の状況により柔軟に対応する)
ア プロトコールは、日本バレーボール協会 6 人制競技規則に準拠し 1 1 分で行う。

イ 予選リーグは、前の試合終了 1 0 分後にプロトコールを開始する。

ウ 予選リーグ最終試合終了 3 0 分後に決勝戦及び 3・4 位決定戦のプロトコールを開始する。

5 服装

(1) ナンバーは、ユニフォームの胸部と背部の中央に付けなければならない。

(番号布の大きさは胸部 10×10 cm、背部は 15×15 cm、字幅は 2 cm とする。)

(2) チームキャプテンは、胸のナンバーの下にマーク(横線)を付けなければならない。

(3) ユニフォームには必ずチーム名を入れなければならない。ユニフォームに入れられない場合は、番号布に記入する。

(4) 監督・コーチ・マネージャーは、それぞれワッペンを付けなければならない。

6 監督・コーチ・キャプテン

(1) 競技中断中の時、ゲームキャプテンだけが審判に対して話すことができる。

(2) 監督はベンチの記録席に最も近い位置に座る。ただし、一時的にベンチを離れてもよい。

(3) 監督は試合を妨害あるいは遅延しない限り、アタック・ラインの延長線からウォーム・アップ・エリアまでのフリー・ゾーンの範囲内では、立ったままで、あるいは歩きながら指示を与えることができる。

(4) コーチ、マネージャーはベンチに座るが、試合に介入することはできない。

7 表彰

表彰は、競技終了後直ちに行い、1 位から 3 位までを表彰する。